1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275100441		
法人名	社会医療法人 駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢大覚寺 1階		
所在地	静岡県焼津市2丁目19-3		
自己評価作成日	令和3年10月20日	評価結果市町村受理日	令和4年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2019_022_kami=true&JigyosyoCd=2275100441-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の最大の強みは運営母体の病院が徒歩5分の距離にある、距離的安心感です。日々の健康管理はもとより、法人独自の救急救命士、救急車の運用を開始し万一の際でも24時間迅速に対応できる万全な医療バックアップ体制は「選ばれるポイント」として入居者家族様、地域のケアマネジャーからも高く評価されています。また令和3年5月からはコロナ禍のなか通院での感染が懸念されるため月2回の訪問診療に切り替え医療との連携が密に取れる環境が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価を毎年受審して都度「期待する点」に応え、年々前進が図られている事業所です。在所率向上をはじめとする事業所努力に呼応するように法人も安心体制を整え、支えてくださっています。例えば、徒歩数分の母体病院へ管理者が付き添う定期受診から、訪問診療へ切り替えています。コロナ禍で待合室の滞留など気になっていただけに大きな安心であり、また内科だけでなく整形、循環器、脳外も網羅している点も助かります。更には救命救急士も設置され、24時間オンコールで体調不良や転倒骨折などに消防救急より迅速に協力医である母体病院に搬送してもらえるようになり、夜勤職員の安心にもつながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度の初めの職員ミーティング時に今年度の目標や理念について話し合う機会を設けている	理念に基づいて3月に立案した目標を一年間皆で取り組み、振り返りもおこなっています。玄関に掲示してはいるものの読み上げ等はおこなっておらず、「忘れていた職員もいるのでは？」と管理者はやや危惧しています。	目標は職員会議や運営推進会議のレジュメに刷り込み、目に触れる機会を増やすことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内の自治会に入り川掃除、公園のゴミ拾いなど地域の活動に参加している	自治会の川掃除や公園のごみ拾いなどで地域の一人としての役割を果たそうと努めています。地域になくはならない存在となっている母体病院の知名度による恩恵もあり、散歩で顔見知りになれば「うちのおばあさん入れる？」と気軽に問い合わせを受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の夏祭りや子供神輿など自治会の行事に参加し地域の方々の理解を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事故報告や利用状況などを報告し運営推進会議の委員に意見を求め改善の場を設けている	運営推進会議は民生委員が2名も出席くださり、偶数月の隔月開催を継続してきましたが、コロナ禍対応として8月と10月は書面開催に至り、メンバーには2ヶ月分の運営状況をまとめて郵送しています。	書面開催の場合は返信シート(FAX用紙、はがき等)を封入し、メンバーから確実に意見をもらえるようにすることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回運営推進会議の場で報告している	コロナ禍における運営推進会議は地域包括支援センターに問い合わせ、近隣事業所の状況を教えてもらったうえで開催を検討しています。地域包括支援センターからは入居紹介も入ってきますが、現在の利用者との兼ね合いもあって、期待に応えることができていません。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年3回身体拘束に関する施設内研修をおこなっている	身体拘束適正化委員会は運営推進会議と足並みを揃え、2ヶ月に1回としています。委員会における協議は利用者の心身の状態に即して検討され、また本人の心情に触れるとともに外出支援という広義な内容も見られ、有意義な活動に実っていることが観えます。	身体拘束適正化委員会は、コロナ禍で運営推進会議が書面開催となると実施カウントが整理しづらい状況となるため、「令和3年度第0回」といった表示が必要です。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の表情や全身状態の観察を日々おこない職員間で情報を共有している、年1回倫理や虐待についても施設内研修をおこなっている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の家族に法務事務所を経営している方がおり、その方に成年後見制度についての資料を作成して頂き職員、家族がが自由に見れるよう玄関に資料をおいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な理解が得られるようわかりやすい言葉で説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者は普段から職員との会話の中で、家族には面会時や家族会時にお話を聞かせていただき意見を反映できるようミーティング等で話し合っている	玄関先で顔を見る程度の面会ですが、その機会を利用して立ち話であってもコミュニケーションを家族ととっています。県外のキーパーソンは訪問を控えてもらっていることから、コロナ禍となつてから1ヶ月の様子を報告する便りに写真を挿入するよう配慮しています。	便りなど定期実施が滞らないよう正副と担当者を2名置くことを検討ください。また「コロナ禍だから現状でも感謝」「これではアンケートは無理」と家族に温度差があるため、電話をはじめ今以上の方法の模索を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングの中で意見を反映させている	職員会議は月1回、ユニット会議は副主任判断による任意です。各ユニットの副主任2名は管理者の相談にもつてくれ頼りとなる存在であるとともに副主任をクッションとして職員は進言しやすく、また+0.5の手厚い配置で働きやすい環境下にあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事考課制度を活用し各職員が向上心を持って働けるように努めている(昇給、昇格、リフレッシュ休暇) 年2回の面談を個々におこない今年度の目標、進捗状況を確認している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のテーマごとの合同会議には担当を決め参加している、年に1回、法人内の事例検討発表会にも参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回法人の主催するテーマごとの講義や施設の発表に参加している、また3ヶ月に1回の市内グループホーム連絡会に参加している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の意向を伺い対応している、また施設サービス計画についても3ヶ月ごとにモニタリングをおこない評価している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の来所持に本人の様子を伝えたり、家族の要望を伺い対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意向や家族の意見を踏まえグループホームだけではなく事業所も視野に入れ本人にとって何がベストなのか検討しており法人以外の事業所にも紹介をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に畑仕事をしたり洗濯などできることは、お手伝いをさせていただいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所持には近況を伝えている、入居者の心身に著しい変化等があった場合には管理者より電話連絡、家族の意向や今後の方針について検討している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容院などの外出支援をおこなっている	定期健診でカリウム不足が解り毎日バナナを食する人、野菜ジュースをケースで居室に置く人、「睡眠効果の高いチョコレートを～」とコンビニエンスストアに通う人、コメダ珈琲のファンの人、ご飯の上には梅干しの人等、様々な習慣と要望を支えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士、席を同じにしたり日常生活の中でスタッフが気配りをしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の他施設へ移る場合は契約終了後も受け入れ先の調整など関係機関と連携し退所後のフォローをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	経過記録や日々の様子から本人の希望を拾い出し職員ミーティングや担当者会議を通して本人本位にサービスが提供されるように努めている	職員はこまめに経過記録をとっており、「(食事)量が多いよ」といった普段の発語を拾い、3ヶ月に1度のモニタリングにつなげています。また葬儀に参列したい要望は「県外から人がこない」「少人数」を確認のうえ、本部の許可を得るなど尽力して実現させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取り相談員やケアマネジャーからの情報提供を受けている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活パターンを経過記録等で把握し職員間で共有している、また本人の持てる能力や意向に合わせて掃除や台所の仕事をおこなっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し本人、家族の意見を反映し介護計画に生かしている	「主体はあくまでも本人」を軸として、職員の理解と実践の標準化を目指しています。これまではカンファレンスで意見を発信、共有するのみでしたが、予め居室担当者にシートへ落とし込んでもらうこととし、職員の理解力も前進しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送り等で情報は共有し必要時、早急に対応できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、外出、受診の付き添い自宅への外出、外泊の支援など柔軟に対応している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナウイルス感染拡大を受けて地域資源の活用ができなかったが、来年度の予定として学童保育への訪問が決定している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者が受診時には付き添い受診の経緯や近況を報告している	徒歩数分の母体病院へ管理者が付き添っての定期受診から、母体病院による訪問診療が新たにスタートしています。コロナ禍で待合室の滞留など気になっていただけに大きな安心であり、また内科だけでなく整形、循環器、脳外も網羅している点も助かります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、看護師による回診、月に2回の往診があり助言を受けている、夜間は法人の医療機関に電話し看護師や医師からの指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供をおこない本人、家族、主治医を交えて話し合いの場を持っている、入院の経過、退院時期についても週1回の病床管理委員会に出席し病院関係者、主治医と情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては現在おこなっていません、重度化した場合や終末期については主治医や関係機関と連携し方針を検討している	重度化にはグループ内の老人保健介護施設3軒の協力を仰ぐ等連携がありましたが、救命救急士が本年3月から法人設置され、さらに充足しています(24時間オンコールで体調不良や転倒骨折などに消防救急より迅速に協力医である母体病院に搬送してもらえます)。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し連絡や対応方法について周知徹底を図っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練 年1回の風水害の訓練を実施している	年2回の法定訓練では夜間を想定した避難誘導で経路確認を中心に取組むとともに、風水害訓練も実施しています。2階から職員2名で車いすのまま搬送したり、管理者が抱えて下ろすなど実践的におこなっており、防災業者の点検もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護や尊厳については年1回施設内研修をおこなっている	誤嚥気味なので「ゆっくりね」と声がけするとケア方針に、連続の声かけやや大きめの声となる職員もいて標準化には課題は残るものの、「説明と同意あるケア」「画一的にしない」「言葉なしの介助はNG」との個別ケアを研修で重ねて問いかけ続けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務の流れや職員の都合が優先されないようにスタッフ一人一人が心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の言動や様子で臨機応変に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入や美容院への外出の支援を職員がおこなっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で取れた野菜の下ごしらえや食事の準備、片づけを職員と一緒にこなしている	ミキサー食が1名、刻み対応は各フロアに3、4名いますが、食事介助が必要な人は現状いません。行事食にも力を入れており、近く迫ったクリスマスにはむね肉のオープン焼きとコーンスープ、ホットケーキでつくるクリスマスケーキが予定され職員の誠意が伝わります。	口腔体操を丁寧に実施するか、歯科の定期受診で誤嚥対策を進めていくことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態にあわせ量や食事形態を決めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力にあわせ対応している、義歯の方は毎日洗浄している 必要に応じて訪問歯科も利用している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し本人の排泄パターン、排泄量を把握しトイレで排泄できるよう働きかけている 便秘等についても月2回の往診時に、医師に伝え下剤の調整をしている	トイレに自ら向かい、職員が後を確認しなくてもよい人が5名ほどいますが、他は介助が必要です。概ね排便記録に協力くださっていますが、報告のない利用者にはこっそり聞くように配慮しています。現状維持が精一杯で向上例はありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレに座って排泄できるように支援をしている 排泄チェック表を活用し便秘の有無を確認している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中は曜日に関係なく入浴できるように支援をしている	週2日の入浴機会を増やして欲しい希望も拒否もなく、同性介助の希望もこの職員がダメということもありません。本人の気分で今日はイヤという場合は日や時間をずらしています。浴剤はつかわず、冬の保湿は医師の処方塗布剤を使用しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員の都合ではなく本人のペースにあわせ就寝援助をおこなっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報はケース記録に綴じ確認できるようにしている、薬の変更、注意点については共有ノートに記載し職員全員が確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や畑仕事など本人の嗜好や生活歴にあわせ支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コンビニエンスストアや行きつけの美容院に行っている	利用者は総じてマスク着用は無理がなく、「飴を買いたい」といった本人の要望に応じてコンビニエンスストアや薬局へ出かけており、馴染みの美容院にも通っています。散歩は1週間に1回程度おこなっていますが、車輛をつかうような外出支援はありません。	降りないドライブならコロナ禍でも可能のため、気分転換に向けて実施となることを期待します。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に職員や家族と出かけ支払いができる方は見守りをおこない自分で支払って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば毎日の電話や手紙の支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、玄関などに利用者の書いた絵を飾っている	午前、午後の定期換気のほか、自室に戻らない人の部屋は終日あけ、空気の流れを新鮮に保っています。またフェースシールドは全職員に購入、「1ケア1プッシュ」を合い言葉にケアの対象者が変わる度にアルコール消毒するとともに、利用者も9割方日中マスクを着用しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの居室は食堂から見えない造りになっており一人になれる空間がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活していたときのものを施設に持ち込み、なじみの環境の中、生活をして頂いている	毎日新聞を読む習慣がある人は調べ物をするのも好きで、電子辞書を持ち込んでいます。薬も医師の指示にそのまま従うのではなく、服用前に自身で丹念に調べ「こういう薬がいい」と主張されます。「先生にきいてみようね」と対応し、家族や医師と都度相談しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を記したり居室の前に自分の書いた絵を貼りわかるようにしている お皿を洗ってもらうときは、皿を種類ごとにわけわかりやすくしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275100441		
法人名	社会医療法人 駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢大覚寺 2階		
所在地	静岡県焼津市2丁目19-3		
自己評価作成日	令和3年10月20日	評価結果市町村受理日	令和4年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2019_022_kami=true&JigyosyoCd=2275100441-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和3年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の最大の強みは運営母体の病院が徒歩5分の距離にある、距離的安心感です。日々の健康管理はもとより、法人独自の救急救命士、救急車の運用を開始し万一の際でも24時間迅速に対応できる万全な医療バックアップ体制は「選ばれるポイント」として入居者家族様、地域のケアマネジャーからも高く評価されています。また令和3年5月からはコロナ禍のなか通院での感染が懸念されるため月2回の訪問診療に切り替え医療との連携が密に取れる環境が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価を毎年受審して都度「期待する点」に応え、年々前進が図られている事業所です。在所率向上をはじめとする事業所努力に呼応するように法人も安心体制を整え、支えてくださっています。例えば、徒歩数分の母体病院へ管理者が付き添う定期受診から、訪問診療へ切り替えています。コロナ禍で待合室の滞留など気になっていただけに大きな安心であり、また内科だけでなく整形、循環器、脳外も網羅している点も助かります。更には救命救急士も設置され、24時間オンコールで体調不良や転倒骨折などに消防救急より迅速に協力医である母体病院に搬送してもらえるようになり、夜勤職員の安心にもつながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度の初めのミーティング時に今年度の目標や理念について話し合う機会を設けている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の自治会に入り川掃除、公園のごみ拾いなど地域の活動に参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや子供神輿など自治会の行事に参加し地域の方々にも理解を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事故報告や利用状況などを報告し運営推進会議の委員に意見を求め改善の場を設けている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回運営推進会議の場で報告している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年3回身体拘束に関する施設内研修をおこなっている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の表情や全身状態の観察を日々おこない職員間で情報を共有している、令和3年度は倫理や虐待についても施設内研修をおこなっている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の家族に法務事務所を経営している方がおり、その方に成年後見制度についての資料を作成して頂き職員、家族が自由に見れるよう玄関に資料をおいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な理解が得られるよう、わかりやすい言葉で説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者は普段から職員との会話の中で、家族には面会時にお話を聞かせていただき意見を反映できるようミーティング等で話し合っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングの中で意見を反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事考課制度を活用し職員が向上心を持って働けるように努めている(昇給、昇格、リフレッシュ休暇) 年2回の面談を個々におこない今年度の目標、進捗状況を確認している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のテーマごとの合同会議には担当を決め参加している、年に1回、法人内の事例検討発表会にも参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回、法人の主催するテーマごとの講義や各施設の発表に参加している、また3ヶ月に1回の市内グループホーム連絡会に参加している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の意向を伺い対応している、また施設サービス計画についても3ヶ月ごとにモニタリングをおこない評価している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の来所時に様子を伝えたり家族の要望を伺い対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意向や家族の意見を踏まえグループホームだけではなく他の事業所も視野に入れて本人にとって何がベストなのか検討しており法人以外の事業所にも紹介をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に畑仕事をしたり洗濯などできることは、お手伝いをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所持には近況を伝えている 入居者さんの心身に著しい変化等があった場合には管理者より電話連絡、家族の意向や今後の方針について検討している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容院などの外出支援をおこなっている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者さん同士席を同じにしたり日常生活の中でスタッフが気配りしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の他施設へ移る場合は契約終了後も受け入れ先の調整など関係機関と連携し退所後のフォローもしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	経過記録や日々の様子から本人の希望を拾い出し職員ミーティングや担当者会議を通して本人本位にサービスが提供されるように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取り相談員やケアマネジャーからの情報提供を受けている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活パターンを経過記録等で把握し職員間で共有している、また本人の持てる能力や意向にあわせて掃除や台所の仕事をおこなっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し本人家族の意見を反映し介護計画に生かしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送り等で情報は共有し必要時、早急に対応できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、外出、受診の付き添いなど柔軟に対応している		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナウイルス感染拡大を受けて地域資源の活用ができなかったが、来年度の予定として学童保育への訪問が決定している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者が受診時には付き添い受診の経緯や近況を報告している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、看護師による回診、月に2回の往診があり助言を受けている、夜間は法人の医療機関に電話し看護師や医師からの指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供をおこない本人、家族、主治医を交えて話し合いの場を持っている入院中の経過、退院時期についても週1回の病床管理委員会に出席し病院関係者、主治医と情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては現在おこなっていません、重度化した場合や終末期については主治医や関係機関と連携し方針を検討している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し連絡や対応方法について周知徹底を図っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練 年1回風水害の訓練を実施している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護や尊厳については院内研修をおこなっている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務の流れや職員の都合が優先されないようにスタッフ一人一人が心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の言動や様子で臨機応変に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入や美容院への外出の支援を職員がおこなっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で取れた野菜の下ごしらえや食事の準備、片づけを職員と一緒にこなしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態にあわせ量や食事形態を決めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力にあわせ対応している、義歯の方は毎日洗浄している 必要に応じて訪問歯科も利用している		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し本人の排泄パターン、排泄量を把握しトイレで排泄できるよう働きかけている 便秘等についても月2回の往診時、医師に伝え下剤の調整をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレに座って排泄できるように支援をしている 排泄チェック表を活用し便秘の有無を確認している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中は曜日に関係なく入浴できるように支援をしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員の都合ではなく本人のペースにあわせ就寝援助をおこなっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報はケース記録に綴じ確認できるようにしている、薬の変更、注意点については共有ノートに記載し職員全員が確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や畑仕事など本人の嗜好や生活歴に合わせて支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コンビニエンスストアや行きつけの美容院に行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に職員や家族と出かけ支払いができる方は見守りをおこない自分で支払って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば毎日の電話や手紙の支援をおこなっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や玄関などに利用者の書いた絵を飾っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの居室は食堂から見えない造りになっており一人になれる空間がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活していたときのものを施設に持ち込み、なじみの環境の中で生活して頂いている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所記したり居室の前に自分の書いた絵を貼りわかるようにしている		